報告

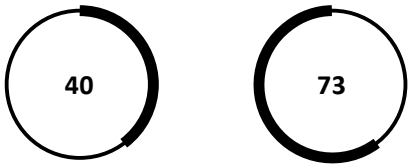
障害福祉の仕事に対するイメージ調査

2021.08.02.

大津市障害者自立支援協議会
大澤 健

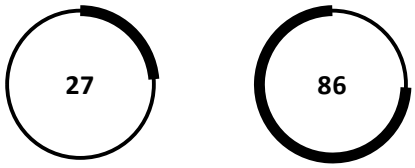
回答者の属性

性別



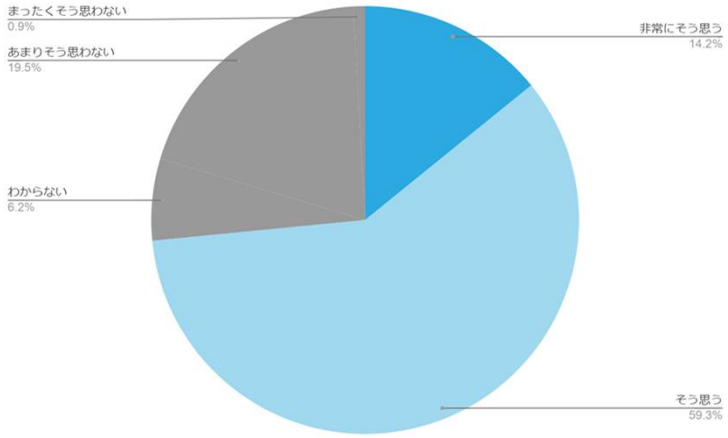
男性　女性

学部学科



福祉系　非福祉系

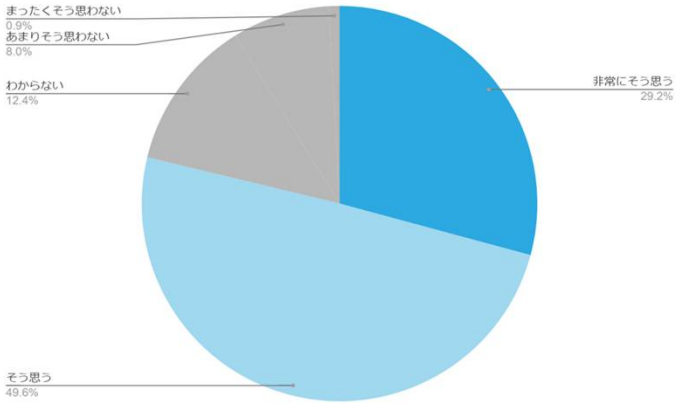
福祉の仕事には、資格が必要



75%

が資格が必要と考えている

福祉は尊い仕事

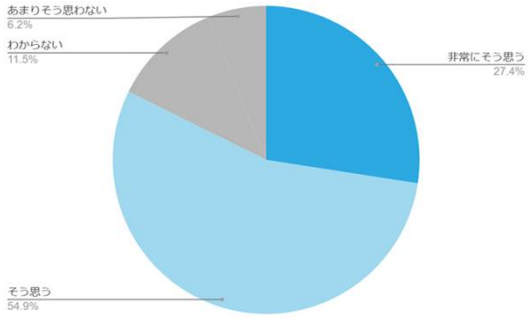


80%

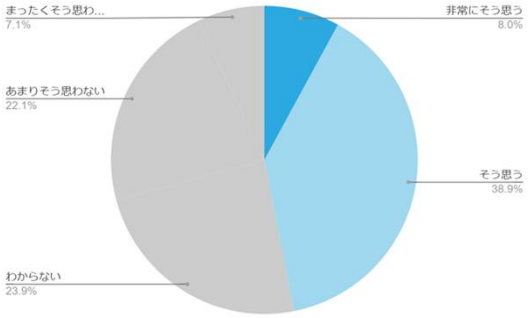
が福祉の仕事を尊いと認識している

福祉の仕事はキツイ

キツイ



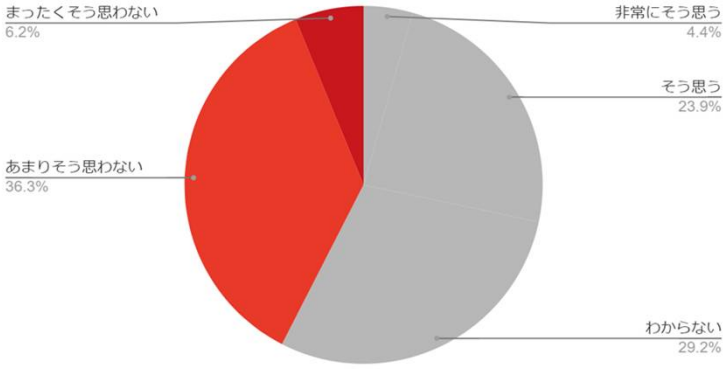
自己犠牲が必要



80%がキツイ仕事だと考えている

自己犠牲が必要と思っている人もその半数にのぼる

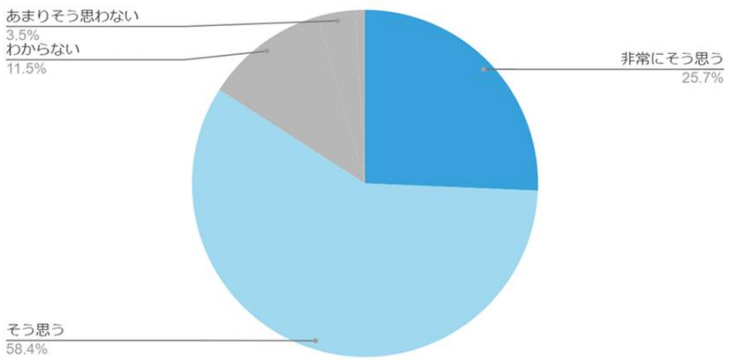
福祉は不安定な仕事



40%

が福祉の仕事を不安定だと思っている。安定していると考えたのは20%

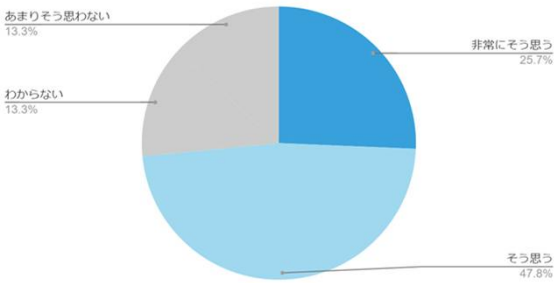
福祉はやりがいのある仕事



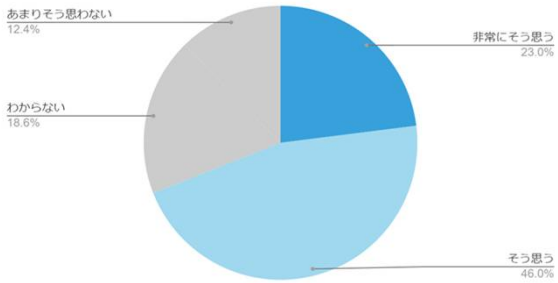
85%
が福祉職にやりがいのあるイメージをもっている

障害福祉の仕事は心身への負担

身体的負担

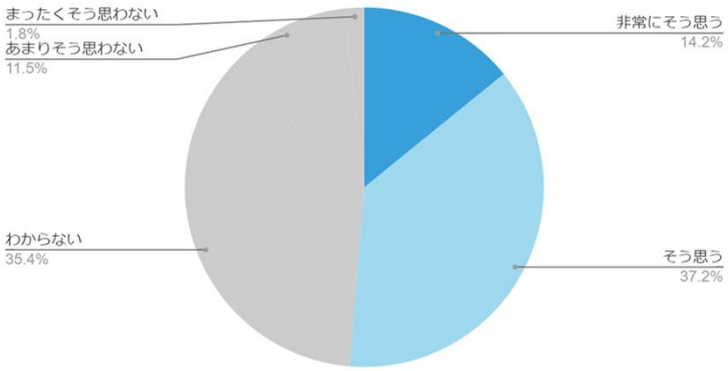


精神的負担



70%が障害福祉の仕事は、
身体的・精神的負担が大きいと考えている

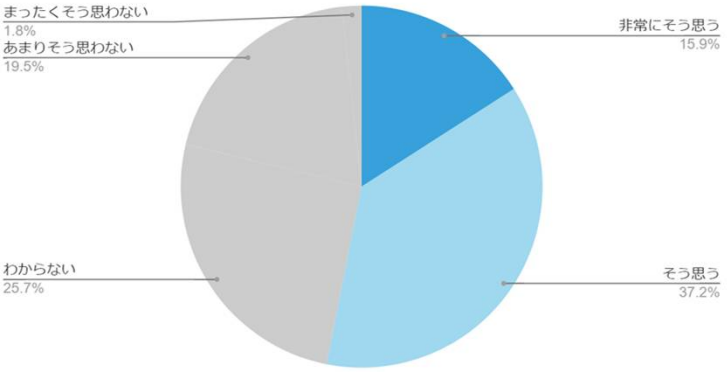
障害福祉は給与等の待遇のよくない仕事



半数

が待遇面に悪い印象を持っている。わからないも3割。

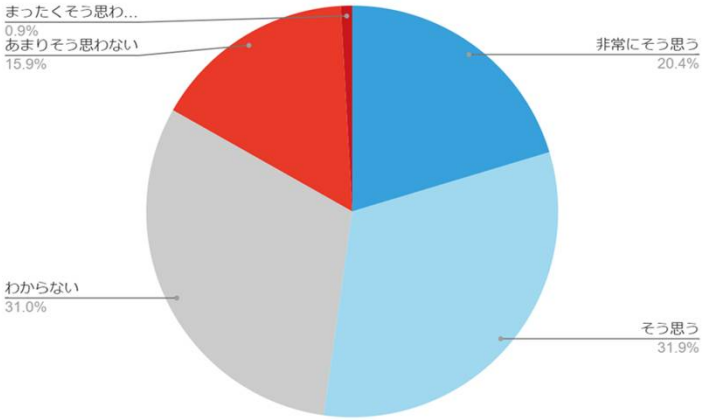
キャリアアップのイメージが薄い



50%超

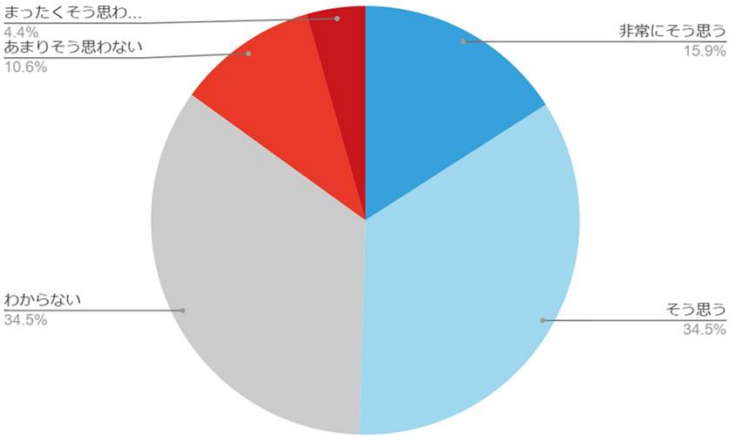
が障害福祉の仕事のキャリアアップのイメージが湧いていない

障害福祉の仕事には将来性がある



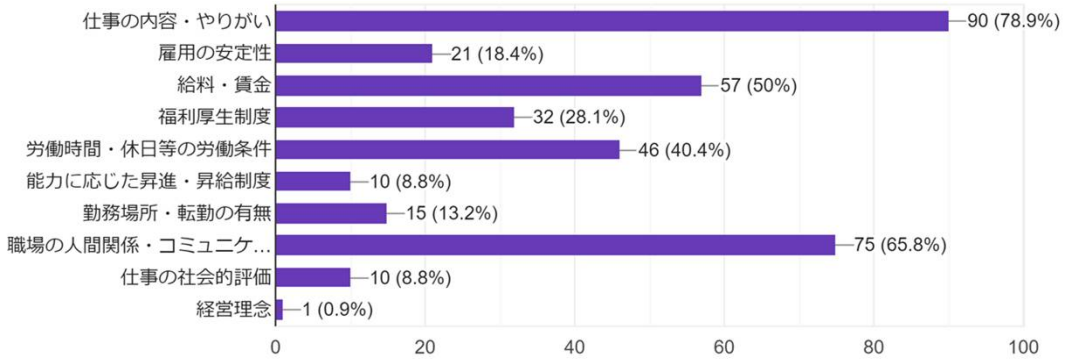
50%
が障害福祉に将来性があると考えており、多数を占める。

保護者からの就職への賛同はありそう



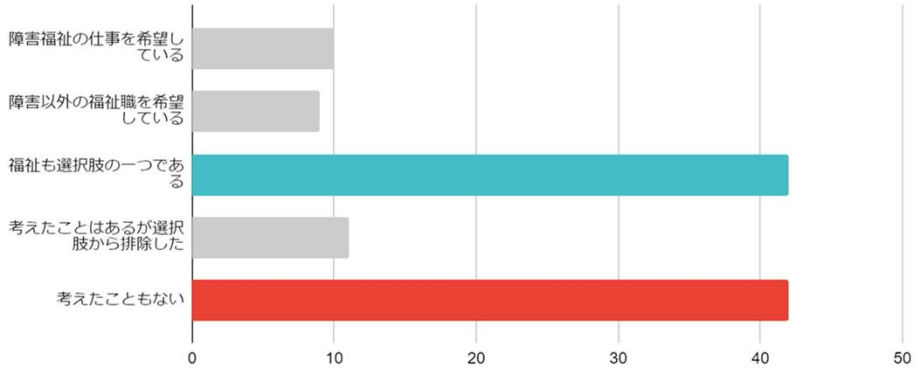
50%
が仮に障害福祉の仕事に就いたとしても、保護者（家族等）の賛同を得れれると考えた。

就職における重要項目



仕事の内容・やりがいは**約8割**が重視している。
続いて職場の関係性に3分の2、給与に半数が重点を置く。

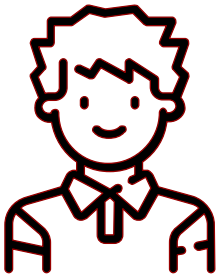
就職の選択肢としての福祉



福祉業界への就職を決めていないが福祉を選択肢の一つに入れている層は**35%**

一方で同じだけ福祉への就職を考えたこともない人がいる

ヒアリング１：経営学部Ｂ４・男性



バイト先のスーパーに、恐らく障害のために大きな声を出している子どもが来たとき、他の客や従業員が偏見のまなざしを向けているのが気になっている。

福祉といえば高齢介護で、そのイメージで障害福祉のことも考える。重労働で繊細さが必要で大変な仕事というイメージ。

就活中。第一志望の交通運輸系がコロナで難しそう。「人の役に立ちたい」という思いと、農業への興味関心から、幅広く見るように。
農福連携などの取り組みを知って、障害福祉も一つの選択肢になってきた。ただ現場への見学などをせずに決めるのは厳しいと感じている。

ヒアリング２：スポーツ健康学Ｍ２・女

小学校の頃は、障害をあまり意識せず支援学級の子と遊んだりしていた。年齢が上がるにつれて「違う人」と区切るように。24時間TVの映像や、電車の中で大きな声を出している人がイメージとして固着。

大学のゼミで「障害って何？」「福祉って何？」を問う機会があって、「知らないのは恥ずかしい」「このままでは社会に出られない」と考えるように。

大学院では、障害認定のない所謂グレーゾーンの子どもを対象とした研究を行っている。
卒業後は保育士として働きたいと思っている。訪問支援に関心があるが、障害の有無にはかかわらずかかわっていきたい。

まとめ（仮）

・福祉の仕事には資格が必要だというのが世間一般の認識
・福祉は尊い仕事であり、やりがいもあると多くの人が考えている
・福祉の仕事はキツイと見られており、障害福祉の仕事も身体的・精神的負担の大きいものと認識されている
・約半数が福祉職の給与等の待遇が悪いと思っており、キャリアアップのイメージももっておらず、就活で重視されるポイントが弱みとなっている
・福祉を選択肢にもっている人は少なくない。同等に、福祉の仕事を一顧だにしたことがないという人も多い。